

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームせせらぎ 1F	評価実施年月日	H20年7月1日
評価実施構成員氏名	小幡規人、三浦かずよし、大槻琴恵、池田美穂子、佐藤仁美、竹内裕美		
記録者氏名	小幡規人、他	記録年月日	H20年7月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>住み慣れた地域で普通の生活を当たり前にする素晴らしさを支援していく理念</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>きまま、わがまま、いいかげんを理念として日々の生活の中で、利用者一人一人に活かしていけるよう心がけています。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム内の見やすい位置にパンフレット等を掲示している。</p>	○	<p>機関紙を発行して町内会の回覧板に載せて少しずつホームのことについて理解してもらう。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>利用者との散歩時などに挨拶や少し立ち話をしたりします。買い物で馴染みのお店もできています。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に参加し、町内の運動会などに参加している。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ボランティア、研修生を受け入れている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価、外部評価が見える所に表示しているが、改善していくにはどうしたら良いかを、具体的に評価を見ながらの話し合いは少ない。</p>	○	評価の意味から理解してもらい、活用の仕方について話し合い、全員で取り組むようにしたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2か月に1度を目標に会議を開き、少しでも地域と関わりを持ち意見・要望を受け、取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>事業所の考え方等伝える取り組みは、できていない。</p>	○	要請などがあれば取り組んでいきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>実際に利用している方が少ないため、制度について学ぶ機会も少なく、話をすることは少ない。あまり理解していない。</p>	○	勉強会を開き、理解を深めるようにしたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>行動障害による攻撃的な態度を取る方もいるため、注意はしている。学ぶ機会は少ない。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居希望時には管理者、ホーム長が会いに行く。利用者等については口頭、パンフレット、重要事項説明書に明示しています。できるだけ本人に見学してもらっています。退去が必要な場合は、本人、家族に説明して送り先との調整をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常生活の中や、ケアプランの書き換えのときなど、本人の意見や不満などを聞いています。その中で、他の利用者とのバランスや家族様の要望なども考え、その上で本人と相談し、出来ることは少しずつ実施できるようにしています。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	面会時などに近況や健康状態などのことを話しています。また、月に一度お便りに写真等をつけて近況を伝えています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり定期的にアンケートの配布をして意見を聞いています。公的窓口の説明は、ホーム内の見やすい場所などに提示してあります。意見や苦情は、カンファレンスや職員で話し合い、改善検討してその結果などを家族等の方々に説明しています。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度はカンファレンスをし、また日頃からコミュニケーションを図るよう心がけています。不満を全て把握出来ていない可能性はあります。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	病院の受信や買い物など、相談があればそれに対応して職員を確保するように調整しています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	家族や利用者との信頼関係を築くためにも、職員の固定化は基本だが、異動や退職が止むを得ない場合は、新しい職員の確保や引き継ぎの面で努力はしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務時や申し送りの中で、管理者やホーム長等が助言や資料の提供をしている。定期的な勉強会やカンファレンスで、職員同士の仕事のやり方や意見交換などしている。また、研修計画を立て、参加できる機会を作っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会などの講師で同業者や他の介護の仕事の方を招いています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	月に一度、カンファレンスで意見交換をしている。悩み、相談がある場合は、管理者、運営者が個々に対応しています。		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	月に一度の勉強会を設けて意見を出し合ったり、課題発表・研修発表など行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	目線を合わせ、本人の困っていることややって欲しいこと、やりたいことなど話を聞き、それに対応して職員で話し合いをして、一つ一つの方法を確認しながら馴染んでもらい、不安や希望を消化していけるように努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族からの相談、疑問、苦情などは、そのつど話を聞き、管理者や職員で話し合いをして回答、改善するように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の生活習慣を大事にし、起床時間・食事の時間など本人の話を聞きながら決める。トイレ誘導・入浴等も本人の希望にあわせ良い方法を見つけ、信頼関係を築き上げるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族が見学をしてもらうことから始めている。自宅や病院に出向き安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	家族のようなつもりで、穏やかな生活が出来るように不安や喜びを知る努力をし、共に支え合える関係づくりをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等に、利用者の様子やスタッフの考えを伝えることで、本人を支えていくための協力が築けることが多い。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族のらい所が少ない方は特に関係作りが難しい部分はあるが日頃の様子をこまめに報告し、より良い関係が築けるよう努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	重度化により関係継続の難しくなってきた方もいるが、本人を支えてきた人達との関係は途切れないよう努めている。外出などは一人一人の生活習慣の継続は勤めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が喧嘩などのトラブルがないようにテーブルやイスの位置や職員が間に入ってお互いを理解し関わりあえるように努めている。孤立しないように散歩に誘ったり、声かけはしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された方や家族の方との特別な連絡などはしていないが、退去時等いつでもご連絡くださるよう話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活習慣を大事にし、本人や家族と話し合いをしながら日々の生活の中で把握に努めている。認知症の進行に伴い判断力の低下している方もいるため困難な事も多くなってきているが生活の中で把握している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	出来るだけ本人らしさを継続しながら、安心して生活できるように経験や暮らし方の中から確認し共に関わっていくようにしている。家族とも話し合いをし把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別にファイルを作成して、生活状況、身体状況を把握しています。日誌や申し送りノート、前任者からの申し送りなどを併用して、現在の利用者の力を一人一人把握出来るように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人と家族に話を聞きながら作成し、何か変化や希望時は期間に関係なくカンファレンスや本人との話し合いの中で現状の改善を図り作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直し時には、本人と相談をして要望を聞いたり見直しをしたりしています。その後要点をまとめ、管理者や職員同士でチェックして作成しています。また、半年に一度家族に介護計画を送付して同意してもらっています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り時やカンファレンス時などに、利用者ごとの情報や支援の工夫の整理、見直しをしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かし、利用者の負担とならないような生活の継続や、終末期の入院やホームでの看取りなど、要望による支援をしていく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	町内の運動会やお祭りに参加しています。	○	少しでも地域と密着出来るよう、他方面の方との協力、呼びかけが必要と思っている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人や家族・医師等と相談して訪問の散髪やマッサージ・訪問看護などに来てもらっています。	○	本人様や家族の意見・要望があればしていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営協議会により、地域支援センターのスタッフとの関わりのきっかけになったため、周辺情報交換などを心かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	週2回の訪問看護と2週間に一回のかかりつけ医の往診を受けています。看護師やかかりつけ医と相談して支援しています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	掛かり付け医の意見を聞き、それによって専門医のいる病院に受診に行っています。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週2回、訪問看護しに来て貰っています。また、管理者も準看護師の資格を持っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	本人や家族の希望や本人の体の状態について病院と相談・連携を図り、本人や家族の希望に沿うように努力している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期についてはホームでも考え、早い早い時期から家族と話をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	少し重度化している方が増えてきているため、出来る事・出来ない事などをかかりつけ医等と話をし見極め、チームとして取り組む。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人様や家族とよく話をし、馴染みの品物を持ってきたりして、本人様が混乱しないように努めています。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人のほこりや機嫌を損ねないように言葉使いに気をつけています。個人情報などが載っている記録などは保管場所を決めてスタッフ以外の人に勝手に見られないようにしています。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけ本人の希望や意見に沿うように努力しています。また、家族の協力が必要な場合は、電話や手紙で状況や本人の希望を伝え、出来るようにフォローしています。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事、散歩、就寝などの時間は、出来るだけ本人の希望に沿って過ごしてもらっています。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>人によって希望があれば訪問の美容師さんや近くの理容室などを利用しています。服なども本人と一緒にお店に行き好みの物を買うようにしています。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事はおおむねスタッフが作っていますが、メニューや後片付けなどは協力してくれる事があります。食事は利用者もスタッフも同じ場所で一緒に食べています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコ・お酒は基本的に禁止していません。甘酒など、季節の節目などに出す事もあります。好みのおやつや飲み物は一度にたくさん買すぎないように声をかけながら買い物と一緒にしています。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を作り、パターンを把握して、本人の訴えがなくても時間ごとに声かけてトイレを促しています。また、昼と夜とでパンツと紙パンツなど使い分けています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	1週間単位で3回は入れるように曜日や時間帯はある程度決めています。必要な場合や本人からの強い希望などがある時は入れるように工夫しています。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息はテーブルや車椅子上で居眠りしている人やジョクソウになる危険性のある人などに声をかけて一時間ほど昼寝をしていただいています。安眠の支援はベッド周りの就寝準備や本人の希望時に湯たんぽなどを使用しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人ごとに話し合いをして、楽しみ事や趣味など出来るように工夫しています。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の可能な利用者様にはしてもらい、難しい方はこちらで管理しています。難しい利用者様については、買い物時などに少しずつお金を渡して自由に使えるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来るだけ本人の希望や沿って出られるように工夫しています。また、特定の人だけでなく、皆まんべんなく外出出来るように気をつけています。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	希望があれば予定を組み、半日くらいの外出はしています。家族の希望があれば、外出や宿泊を家族としてもらっています。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望時に電話をしてもらっています。深夜などの場合は、朝まで待ってもらうこともあります。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面接時間を設けず、家族や友人等の出入りは自由で、遠慮なく過ごしてもらえるように心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	拘束は一切していません。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中には全く鍵をかけていません。また、玄関の見える所に事務コーナーを設置したり、鏡で玄関を見えるように工夫しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	個人ごとにその人のペースを崩さないように注意しています。日誌や申し送りノートなどを使用して、変化や注意点は職員全員に伝わるまで申し送りしています。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	自己管理、使用出来る人は、果物ナイフなど本人が管理しています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	研修やカンファレンス、ひやりハットノート、対応のマニュアルなどを置いて、その時時に対応できるように取り組んでいます。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	対応のマニュアルを作成しています。訓練等はしていないが、定期的に資料を作り、見てもらっています。また、日頃の業務の中で指導したり、少しでも異変がある場合は、直ぐに報告しています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議の場を活用し、可能となる地域の支援体制を把握するとともに、町内会の活動等を通じ、グループホームの存在、業務などについて働きかけています。	○	回覧板でホームの情報を公開して、少しずつ地域の人達の理解や協力を頂けるようにしていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	個々の身体状況の変化や日常生活の状況等を通信として毎月ご家族に送付しています。更に、来所された際相談したり、電話するなどして具体的に説明し、本人に必要な対応策を考え実施しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	申し送りをきちんとしています。日勤者はその日の夜勤者へ、夜勤者は次の朝また申し送りで連絡し、遅番担当のスタッフにも伝え合っています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	病院からの服薬提供書を個々に理解し特に下剤に関しては排便状況に注意し、スタッフ同士で連絡し合い調整しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝食にヨーグルトを食べていただいています。その他、バナナなど食物繊維のある物を出来るだけ多く摂って頂いています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアをし入れ歯使用者は夜間ポリドントなどで消毒しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の水分摂取量を1000cc以上として特に多く必要な人は1500ccとし、自力で無理な方は横飲みで介助しています。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	洗面台には固形石鹸・液体石鹸を用意し風邪の流行時、手洗い・うがいに注意している。また、夏場は貝などの生物の摂取は注意しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	フキン・まな板などは漂白剤を使用して清潔に洗い、食材は日付を過ぎた物は使用しない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	車椅子で出られるようにスロープになっています。玄関前にプランターを置き、花を育てています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度調節や清掃・換気に気をつけテーブルに花を生けて季節感を出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファを設け、好きな時間そこで過ごし、昼寝なども自由に出来るようにしています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやベッドなど本人の使い慣れた物を持って来て使ってもらっています。部屋の者の設置や模様替えは、本人とよく相談して行っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度調節や清掃・換気は、その日その日に合わせ、こまめに行っています。	○	床暖房のため、一人一人の部屋の温度の微調整が難しい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>車椅子移動、シルバーカーの自操、自力歩行などに必要な動線の確保・設備をすると共に余分な物は置かない。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>部屋やトイレの入口に名札を付けて迷わないようにしています。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランターに花や野菜を植えるなどしている。また、公園を散歩するなどして活動の範囲を広げている。更に、運動会のように町内の集いに積極的に参加している。</p>	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)理念を意識し笑顔を忘れず個々のペースに合わせて1日がゆったりと穏やかに生活できるよう、努力しています。また、時間を区切らずその日の状況に合わせています。玄関には鍵をかけず、ご家族が自由に来所できるようにしています。